

『確かな学力をもった児童の育成』

～感じ取ったことや考えたことを表現する力を育てる学習指導～

I. 研究の内容

(1) 研究の見通し

教科学習において作業的・体験的学習を取り入れ表現活動を工夫すれば、感じ取ったことを豊かに表現したり考えたことを分かりやすく説明したりする力が育ち、確かな学力の育成につながるであろう。

(2) 研究の具体的内容

- ① 児童につけたい確かな学力及び表現力についての共通理解
- ② 作業的・体験的な活動を取り入れ、表現する力の育成に視点を当てた授業の工夫
- ③ 表現力を高めるための継続的な取り組み
- ④ 児童の実態や変容を見取る工夫。
- ⑤ 英語活動に関する研修

(3) 実践内容

① 確かな学力・表現力についての共通理解

確かな学力とは、知識技能に加え、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力である。

表現には、「話す（音声言語）」「書く（文字言語）」「示す（図・絵等）」「表す（表情・態度・身体・行動）」がある。

いずれも、伝える「相手・対象」があって行われる。誰に対してどのような状況で伝え表現するのか、どのような伝え方・表現の仕方が適切であるかを意識することが大事である。

② 作業的・体験的学習を取り入れ表現活動を工夫した授業

1年 算数 「ひきざん」 授業者 沼田 豊子

計算ブロックを使い、繰り下がりのあるひきざんのやり方を考え、それを学級の友達に説明したり、説明を聞いたりする授業。具体物やブロックなどを操作しながらの説明なので、全員がしっかり話すことが出来た。ノートにも整理して書いていた。

2年 算数 「長さをはかろう」 授業者 津野 千尋

生活科の野菜作りと関連付け、長さの表し方を考えた普遍単位cmにつなげる授業。「私は…」「私も…」などしっかり考えが話せていた。言葉だけでなく、やり方を見せ合うことも一つの表現方法であることを確認した。

3年 算数 「四角形を調べよう」 授業者 関口 若子

操作活動を通し四角形や直角三角形などの構成要素である直角の概念を理解させる授業。図形や紙を操作し、見せ合うことを中心に学習した。

4年 理科 「季節と生き物」 「一枚の絵から」 授業者 竹川 俊之

へちまと落葉樹を比較し、種をつくって生命を伝える植物と、葉は枯れ落ちても個体そのものは生きている植物の違いを考える授業。1年間を通して、継続的に自分の木の変化を見てきた。その中で整理したり、まとめたり、比較したり、対応させたりする活動から、判断力表現力を鍛えることができた。

5年 算数 「きまりをみつけて」 授業者 藤原小百合

変化する2つの数量を表に表すことを通して、数量関係や規則性を見つける授業。考え気づいた規則性を友達に分かるように説明することを中心に授業を展開した。いろいろな考え方で問題を解くことができた。

6年 算数 「分数のかけ算とわり算を考えよう」 授業者 清水 芳彦

分数のかけ算をし、計算の途中で約分すると簡単なことや、整数×分数の計算の仕方を理解させる授業。子どもに説明させることを多く取り入れた。

③表現力を高めるための継続的な取り組み

スピーチ・朗読や暗唱・日記・授業の中で考え方を説明させる取り組み・理科で「予想・観察・実験・結果・感想」というパターンを入れること・課題を提示して調べ発表すること、話し合い活動、パソコンを使つての発表・ノート指導など、様々な取り組みを行い、実践交流した。

④児童の変容を見取るため、児童に7月と12月にアンケートをし、その結果を見て話し合った。一人ひとりの児童について職員が共通理解をはかる場にもなった。

⑤英語研修として模擬授業をしたり、英語ノートの活用について学習したりした。

Ⅱ 成果と課題 (○成果 ☆課題)

○授業を中心に研究する中で作業的体験的学習の工夫がたくさん見られた。本年は算数や理科で論理的に話すことや表現の方法について工夫した。個々の実態や学年の実態に応じた様々な実践がなされてよかった。

○授業を見せ合う中で、教材研究、動機付け、発問、板書、授業の流れなど多くのことを話し合い、教師の力を高めることが出来た。

☆表現力をどのように定義し、どんな力が育てば表現力が育ったと言えるのか、曖昧な面があった。発達段階に応じた話す力の達成目標などを明確にして取り組むとよいのではないか。

☆表現力を高めるには言語力の育成や自由に表現できる学習環境や人間関係づくりなど多くのことが影響する。今後も粘り強く継続的な取り組みをしていきたい。

Ⅲ 成果物

- ・ 授業案
- ・ アンケート集計結果

(研究主任 沼田豊子)